授与機関名　順天堂大学

学位記番号　甲第 1914 号

Maternal antimicrobial use at delivery has a stronger impact than mode of delivery on bifidobacterial colonization in infants

（分娩時の母体への抗菌薬投与が乳児のビフィズス菌定着に及ぼす影響）

井本　成昭（いもと　なるあき）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、日本人の 1-2 ヶ月児における腸内細菌叢を次世代シーケンサーで解析し、乳児腸内細菌叢の構成とビフィズス菌の占有率に影響を及ぼす因子として、分娩時の抗菌薬投与の有無と分娩様式の違いのどちらがより大きく影響しているかに注目して行われた研究についての記述である。本論文によって、日本人の早期乳児の腸内細菌叢の構成及び、ビフィズス菌の定着には分娩様式の違いよりも、母の分娩時の抗菌薬投与がより強く影響している可能性が示された。

これまでの我が国および海外での先行研究では、分娩様式、特に帝王切開が乳児におけるビフィズス菌定着に影響を及ぼすことが指摘されてきたが、帝王切開を含めた、分娩直前の抗菌薬投与自体が、児の腸管におけるビフィズス菌定着に影響を及ぼしていることを示した点で本研究の結果は独自性があり、また本論文は、早期乳児腸内細菌叢に対する理解を発展させ、今後のさらなる臨床研究の可能性を示した有意義なものである。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。